

所 報

題字: 武田満之校長(平成9年、野幌中学校)

第145号 平成31年4月10日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町24-6 Tel 381-1058

(主な内容)

・2019年度江別市公立小中学校の教育活動スタートにあたって

江別市教育委員会教育長 月田 健二

2019年度江別市公立小中学校の教育活動スタートにあたって 第2期江別市学校教育基本計画の実施 2019年度(平成31年度)~2023年度

江別市教育委員会教育長 月田 健二

~夢の実現に向けて行動する子どもの育成~
地域・教育機関に支えられ、
学校と教育委員会がスクラムを組んで

2008年(平成20年)7月から本市の教育行政に携わり3期11年目が終わろうとしている。学校現場経験や道教委時代の経験を生かし、学校教育、社会教育の充実に取り組んでいる。この11年間で学校教育も社会教育も大きく変貌を遂げた。

2018年(平成30年)4月に実施された全国学力・学習状況調査では、「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」という問いに、当市の教師の評価は、小学校6年生76.5%(全国より36.6ポイント高い)、中学校3年生100%(全国より42.0ポイント高い)となっている。特に中学校は、14年から18年まで5年連続100%であり、驚異的な数字となっている。小学校から中学校への責任ある送り込みと各中学校の努力に感謝している。

全国学力調査の結果も当然ながら、小学校は全国と同程度、中学校は全項目とも全国を大きく上回っている。全国体力・運動習慣等調査でも小中学校とも全国と同程度となっている。

また、例年2月に表彰する子どもたちの文化賞・スポーツ賞、奨励賞、教育委員会表彰は、全国1位相当、全道1位相当、全道2・3位相当という厳しい規定があるにもかかわらず、年々受賞者が増加し、18年度(平成30年度)は、93個人・団体が受賞している。

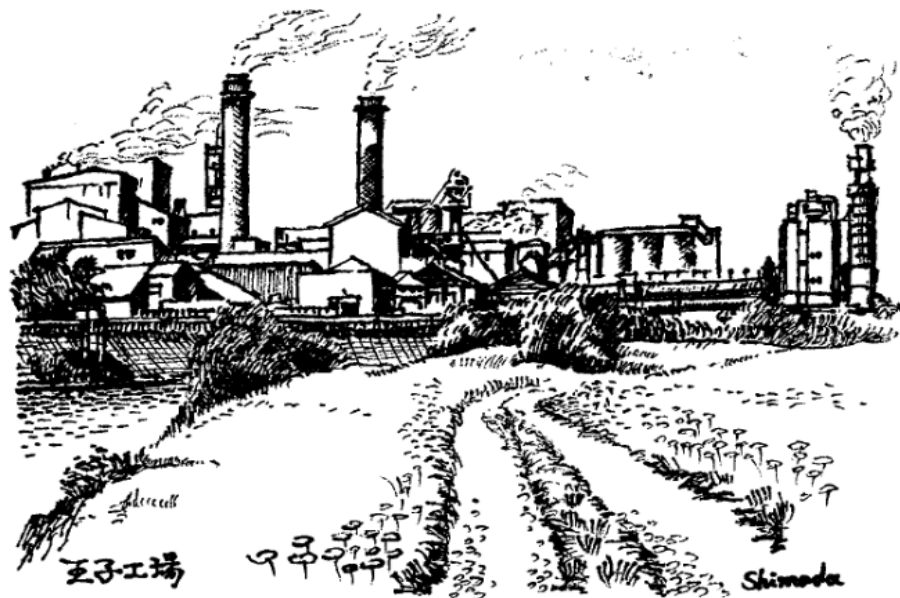
江別市文化協会や江別市体育協会の皆様方にも深く感謝申し上げるところである。これには、2014年度（平成26年度）から実施された「第1期江別市学校教育基本計画」が大きく関わっている。江別市が目指す子ども像は、「夢を持ち、夢を語り、夢の実現に向けて行動する子ども」であり、第1期、第2期とも同様としている。さて、子どもたちの夢の実現は容易なものではありません。子どもが夢に向かって成熟していくには、葛藤がなければなりません。成功体験とともに失敗体験が必要である。失敗体験なくして本当の成成感は得られません。成成感の積み重ねによって、豊かな人間性が育つと考える。

豊かな人間性に満ち溢れた子どもは、「善き意思」「思慮知性」「豊かな情操」「知識・技能」「健康な心や体」を兼ね備えている子であると考え。江別市の大人社会は、このことをよく理解してもらい、少年団活動で、習いものの教室で、地域の子ども会で、大学の先生や大学生を含めた地域のボランティア活動等で子どもたちに真剣に関わってくれている。別な言い方をすれば、学校、教育委員会を中心に「オール江別」で推進してくれている。

そこで、第2期江別市学校教育基本計画は、第1章「計画の策定にあたって」、第2章「学校教育の現状」は、今日的な見方・考え方に変更し、第3章の「江別市の学校教育が目指すもの」は、一部手直しに留め、第4章の「施策の展開」においてさらに一層の発展を推し進めるべく改良・改善を加えている。

例えば、基本方向8「地域とともにある学校づくりの推進」では、「江別型コミュニティ・スクール事業」の推進はもち論のこと、学校段階間の連携の推進を強力に行おうとしている。

第1期江別市学校教育計画同様に、第2期の計画履行をしっかりと実施していく決意ですので、学校関係者はもち論のこと、すべての大人社会のご協力をお願いしたい。



江別市教育委員会では、第2期の「江別市学校教育基本計画」を策定し、各小中学校に配付いたしました。月田教育長のご挨拶にありますように、今後5年間はこれを基に教育を推進していくこととなりますので、是非目を通していただきたいと思います。

さて、江別市教育研究所は、教育の理論と実践について専門的研究を行い、教育の進展と充実を図ることを目的とし、昭和30年に設立されています。子どもたちの意識や行動、学習や生活環境などを調査し、毎年「調査研究報告書」を発行しています。また、教職員対象のセミナーを実施し、新しい指導の在り方、実践的な指導内容、様々な連携方法などを発信しています。今年度も「所報」を随時発行し、江別市の小中学校教育の一層の充実のために情報提供に努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。